

龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University
Learning Support ·
Educational Development
Center Report

2017

01



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日: 2017年11月 編集・発行: 龍谷大学 学修支援・教育開発センター



履修相談ブース



コモンズチューター研修



コモンズチューター採用時研修

2017, Number 01

CONTENTS

p3 新センター長挨拶

p4-5 十学部合同学生会主催
「新入生対象履修相談ブース」・
「第1回学生FDサロン」開催報告

p6 FDサロン開催報告

p7 深草コモンズライティング支援
コモンズチューター活動報告(GP成果報告)

p8-9 manabax 授業アンケート
manaba course を活用した
「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

p10 2017自己応募中間報告会一覧

p10 新着図書の紹介

新センター長 挨拶



学修支援・教育開発センター長
藤田 和弘

近年、大学における教育の質保証がますます重要になってきています。そして、その大学教育に関してファカルティ・デベロップメント (FD) は、重要な要素です。

ファカルティ・ディベロップメント (FD) とは、文部科学省の用語集によると、

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。なお、大学設置基準等においては、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めているが、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。

とあります。また、龍谷大学では、FDを

「各教学主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目的を実現するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指したすべての取り組み」

と定義し、具体的な活動として、1) 各教学責任主体が主体的・組織的に行う教育改善活動、2) 教員集団・教員個々が日常的に行う授業方法や内容の改善の

ための活動、3) 学修支援・教育開発センターが全学的に行う教育改善活動及び各教学責任主体や教員個人教育改善活動の支援、学生の主体的学修を促す支援などを行っています。この龍谷大学におけるFDを支援する組織として、学修支援・教育開発センターがあります。

また、大学における教育の質の向上としては、学生の主体的な学習も非常に重要です。そして、その学生の主体的な学習の場として、龍谷大学ラーニングコモンズがあります。龍谷大学ラーニングコモンズは、スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ナレッジコモンズの3つの機能別コモンズから構成され、学生の「多様な学びの空間」を全体のコンセプトとし、それぞれの特徴を活かした学修支援を展開しています。学修支援・教育開発センターは、スチューデントコモンズを担当しています。

学修支援・教育開発センター長として、大学全体のFD活動に貢献するにあたり、以下のことを考えております。私は、理工学部情報メディア学科の教員で、信号処理や画像処理を専門としていて、データサイエンスにも興味がありますので、いろいろなデータについて教学IRという観点でデータ解析を行いFD活動に貢献できればと思っています。また、JABEEの審査経験を生かして龍谷大学全体のFD活動に貢献できればと思っています。

教職員の方々のFD活動および学生の主体的な学びのお役に立てるようがんばりますので、よろしく願いいたします。

「新生対象履修相談ブース」

新生対象履修相談ブース

十学部合同学生会では、毎年度新生のオリエンテーション期間中に、深草・瀬田学舎において履修相談ブースを設置し、新生の履修手続きや講義に関する不安・疑問等に対応しています。

今年度は、4月2日(日)・3(月)・5(水)に深草学舎和顔館スチューデント commons、4月4日(火)に瀬田学舎智光館スチューデント commonsにおいて開催し、4日間で約230人の新生が履修相談ブースを訪れてくれました。

十学部合同学生会代表
経営学部4回生

菅原 希有花



新生の初めての履修への不安を解消するため、毎年度、履修相談ブースを設置しています。今年度は、多くの新生の相談にのりたいと考え、ビラ配り・立て看板の設置・ポータルサイトでの掲載など広報活動に力を入れました。その結果、ブースに溢れるほど多くの新生が来てくれ、十学部合同学生会の一員である代議員の手が足りないほどでした。アンケートでは、新生の多くが「履修の組み方がわからなかったので相談に来た」ということをあげていました。これらのことも踏まえて、今後も十学部合同学生会では、龍谷大学生の正課環境の向上につながるよう努めていきます。



十学部合同学生会とは・・・

校友会選挙で選出された代議員で構成する学生会組織の1つで、「学生の正課環境の改善・向上」をテーマに活動しています。学修支援・教育開発センターと連携を図り、学生・教員・職員が一体となって学びについて考える学生FDサロン等、学生FD活動にも積極的に取り組んでいます。



中央執行委員会正課局長
社会学部4回生

立川 凌輔



今回の履修相談ブースは、多くの新生の方々にお越しいただき、嬉しい結果となりました。私は、全学生の正課(授業)環境の改善・向上のため活動を行っている代議員のサポートをさせていただいており、今回の運営の中で必死に新生の履修に対する不安を解決しようと取り組んでいる代議員の方々や真剣に履修に対して向き合っている新生の姿を見て、『学生が主体的に充実した学生生活を実現』しようとしていると感じ、大変喜ばしく思いました。

これからもすべての学生が充実して正課に取り組めるよう活動させていただきますので、代議員への応援をよろしくお願いいたします。

「学生FDサロン」開催報告

2017年度第1回学生FDサロン

真剣龍大 しゃべり場：あなたは何の為に授業を受けていますか？

～何の為、誰の為の授業～

学生の正課環境の改善・向上を目的に活動する十学部合同学生会が学修支援・教育開発センターとの連携のもと、学生FDサロン※を開催しています。

今回の学生FDサロンは、「あなたの理想の授業は？」というテーマを設定し、6月15日(木)に深草学舎和顔館スチューデント commons、6月13日(火)に瀬田学舎学生交流会館において開催しました。学生・教員・職員がグループに分かれ、「授業の目的・意味等」について話し合った後、その内容を参加者全員で共有し、意見交換を行いました。

※十学部合同学生会が中心となり企画・立案・運営する学生主体のFDサロン



第1回学生FDサロンを振り返って

学生と教職員がそれぞれに描く理想の溝が埋まった

十学部合同学生会副代表
文学部4回生

長尾 祐大



今回の学生FDサロンは「あなたの理想の授業は？」をテーマとして、学生と教職員で自由に話し合いました。参加者は白紙をボードに見立てて理想の授業を出し合いました。学生目線の理想の授業と、教職員目線の理想の授業では異なるところがありますが、そこが今回の醍醐味でした。学生の授業に対する不安や疑問と、教職員の授業に対する思いを理想の授業として互いに発表していただくことで、両者の溝を埋めて行けたように感じました。

大学において授業は大切なものです。学生と教職員がこのような溝を埋めていけることで、両者が正課に意欲的に取り組んでいけるようになると思います。

瀬田学舎では昼食をとりながら、自由な雰囲気の中で開催

十学部合同学生会副代表
社会学部4回生

椿井 寿明



今年度は瀬田学舎でもお昼休みの時間を利用して、「あなたの理想の授業は？」をテーマにFDサロンを行いました。瀬田では学生と教職員でお昼ごはんを食べながら、和気藹々とした雰囲気の中進んでいきました。

学生の参加者は自分が理想とする授業について、教職員の参加者からは自分がどのような授業をしていきたいかについて発表してもらい、話し合いを行いました。そして、最後には理想の授業を実現するため、自分自身でできることを考えてもらいました。

学生、教職員にとって、お互いの目線から見た「理想の授業」を知れて、授業について考えていくうえでいい機会になったのではないのでしょうか。今後も瀬田学舎で学部学生会として正課環境向上の為の活動が行えたらと思います。

参加した学生・教職員の意見

- 教職員と話すことができた(学生)
- 正課授業について考え直すことができ、今後の授業を受ける姿勢が変わった(学生)
- 他学部の人と授業について活発に意見交換できた(学生)
- 学生の皆さんの授業に対する具体的な意見が聞けたので、今後活かしたい。(教職員)

FDサロン開催報告

2017年度第1回FDサロン

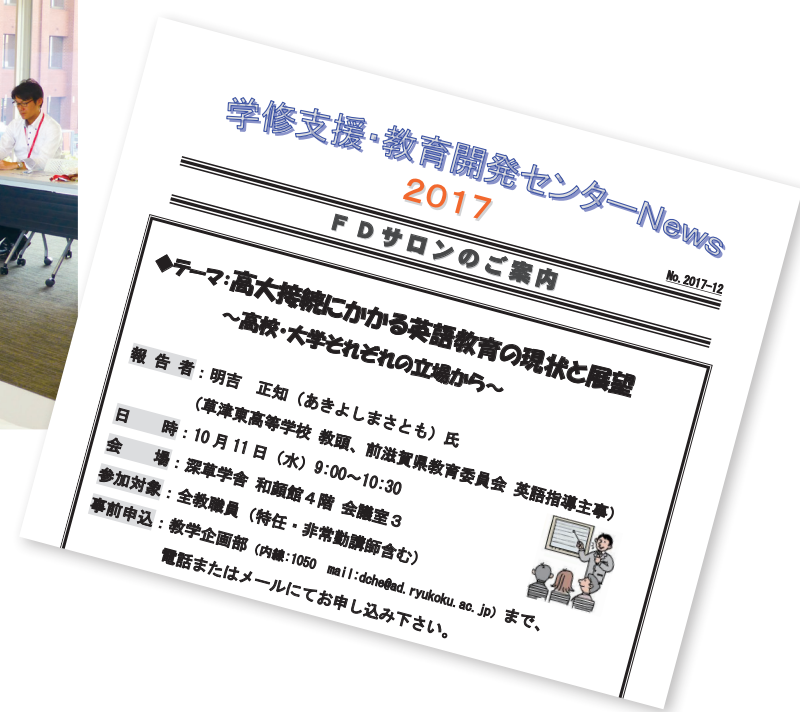
高大接続にかかる英語教育の現状と展望 ～高校・大学それぞれの立場から～

10月11日(水)に2017年度第1回FDサロンを開催しました。

今回のFDサロンでは、滋賀県立草津東高等学校の明吉正知教頭先生にお越し頂き、明吉先生から高校現場の英語教育に関するお話をいただいた後、自由な雰囲気の中、活発に質疑応答や意見交換がなされました。

英語科目の担当教員の方々や、入試部、グローバル教育推進センター、各学部教務課の職員の方々も参加され、最近のFDサロンでは最も多くの17名の参加となり、関心の高さがうかがえました。

詳細については、後日発行予定のFDサロンレポートでお伝えいたします。



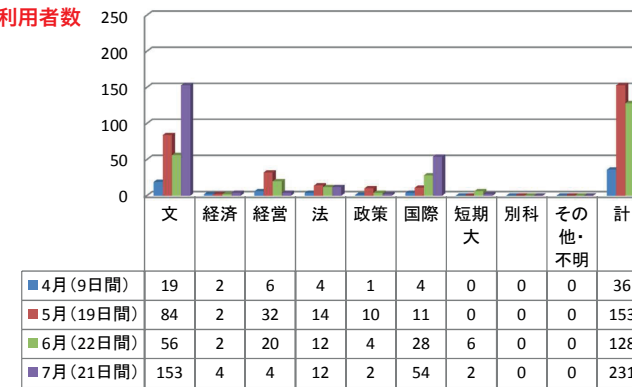
深草スチューデントコモンズライティング支援 コモンズチューター活動報告

深草コモンズにおけるコモンズチューター(大学院生)によるライティング支援は、龍谷GP事業として2015年度にスタートしました。2016年度でGP期間は終了しましたが、コモンズチューターのスキルアップを目的とした各種研修・ミーティングの実施や、支援ツール(「レポートの書き方チェックシート」「発表資料作成のためのチェックシート」)の開発、manaba courseを利用したチューター同士の情報共有ツールの導入など、GP期間終了後も活用可能なノウハウを蓄積しました。

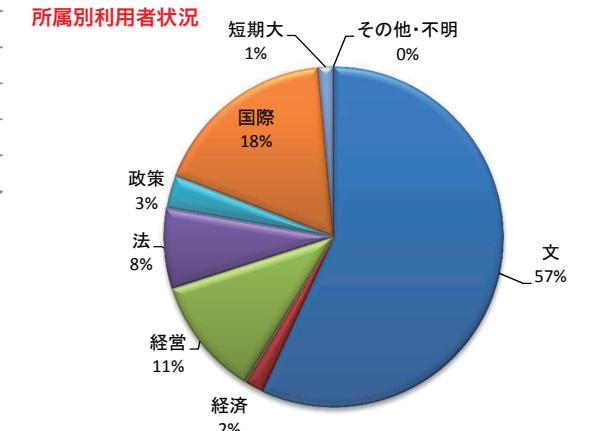
今年度は上記ノウハウを活用し、引き続き研修を開催することにより、コモンズチューターのスキルアップに努め、支援方法・内容等の改善・充実を図っています。

ライティングセンター(深草)利用者データ

【2017年度第1学期】
所属別利用者数

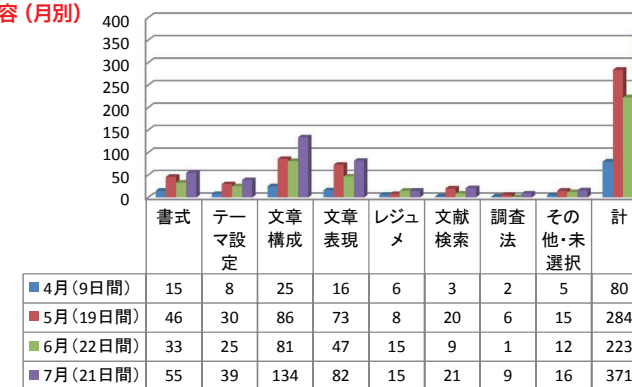


【2017年度第1学期】
所属別利用者状況

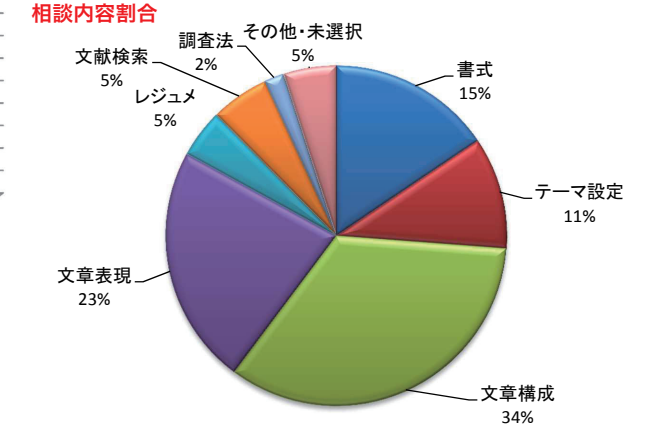


ライティングセンター(深草)相談内容

【2017年度第1学期】
相談内容(月別)



【2017年度第1学期】
相談内容割合

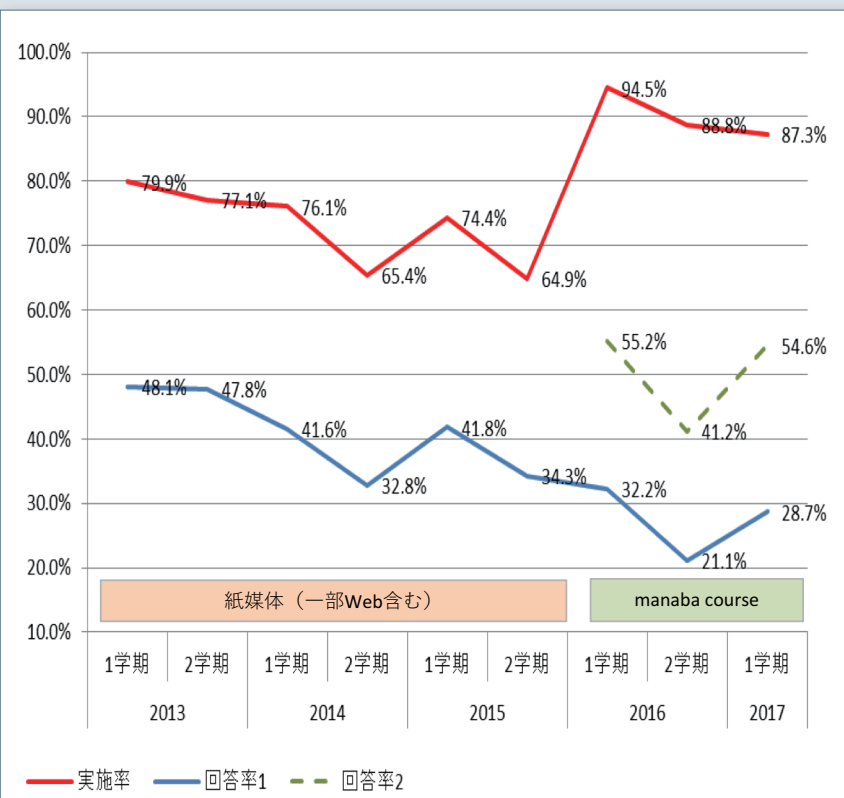


「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。2年目となる今年度の第1学期の実施率※1は87.3%（対前年度比7.2%減）、回答率※2は28.7%（対前年度比3.5%減）となりました。

今後、より多くの学生から回答を得ることによって、これまで以上にその結果を教員個々の授業改善活動や学部等の組織的な教育改善活動に活用できるよう、manaba courseを活用した「学生による学期末の授業アンケート」の回答・利用促進を図っていきます。

※1…回答科目（1名以上の回答があった科目）数÷対象科目数×100
※2…回答者数÷受講登録者数×100

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況（実施率・回答率）一覧



実施率1…回答科目（1名以上の回答があった科目）数÷対象科目数×100
 回答率1…【延べ人数回答率】
 回答者数÷受講登録者数×100
 回答率2…【実人数回答率】
 実回答者数÷実受講登録者数×100
 （実回答者数=1学生が1以上の科目を回答した場合は1人とカウント）
 （実受講登録者数=1学生が1以上の対象科目を有する場合は1人とカウント）
 ※回答率2は、manaba course 導入により算出が可能となった。

教員向け情報

【回答結果確認方法】

1. 大学HPのポータルサイトからmanaba courseにログイン(以下、manaba course上での操作)
2. マイページ上部の「大学からの課題・アンケート一覧へ」をクリック



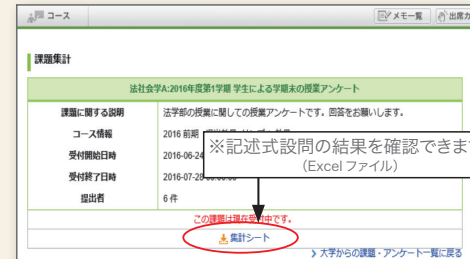
3. 授業アンケート対象科目及び実施期間を確認

| アンケート番号 | ※開講責任組織ごとに付番 | 実施期間 |
|---------|---|---------|
| 1 | 2016-07-01 09:00:00 - 2016-07-28 23:59:59 | 2016 前期 |
| 2 | 2016-08-24 09:00:00 - 2016-08-28 23:59:59 | 2016 前期 |
| 3 | 2016-07-01 09:00:00 - 2016-07-28 23:59:59 | 2016 前期 |
| 4 | 2016-08-24 09:00:00 - 2016-08-28 23:59:59 | 2016 前期 |

4. 回答結果を確認したいコース(科目)名称をクリック



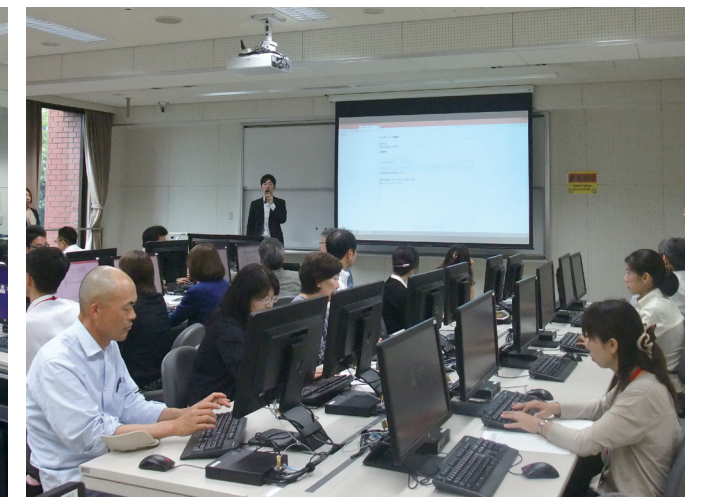
5. 「集計シート」をクリック



manaba course説明会

深草学舎（6月21日）、瀬田学舎（7月5日）において、manaba course説明会を開催しました。説明会では（株）朝日ネットの方に講師を務めて頂き、深草学舎では31名、瀬田学舎では16名の教職員の方々が参加されました。参加者はレポート課題の作成や小テストの作成を実際におこない、manaba courseの機能について触れる機会となりました。

引き続き、教学企画部ではmanaba courseを使ったアンケートの実施や学生調査について、サポートをおこなっていきます。



2017年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」実施情報

2017年度第2学期も本学FD活動の一環として、「学生による学期末の授業アンケート」をmanaba course上で実施します。

実施目的・方針(要約)

- ① 学生が自身の取り組みを振り返り記録することによって学修活動を伸長・改善するための学修支援の一環として実施します。
- ② 学生の回答結果を用いて、教員が個々の授業改善活動に活用し、学部等が組織的な教育改善活動に活用するための教育改善活動支援の一環として実施します。
- ③ 成績評価などの学生個人に関わる評価や、授業評価などの教員個人に関わる評価のためには実施・活用しません。

実施方法

manaba course上で実施いたします。アンケート実施科目担当の先生方はアンケートの回答率を向上させるためにも、受講生に対し回答を促すなど、ご協力をお願いいたします。

回答状況・集計結果

アンケート実施科目担当は期間中でも、manaba course上で即時的に受講生の回答状況（匿名式）を確認することができます。

2017年度第2学期
授業アンケート対象科目担当の先生方へ

授業アンケートの回答呼びかけをお願いします

実施期間：1月上旬～2月上旬（定期試験期間）

1. 受講生に対する呼びかけについて
※受講生に対し、授業アンケートの回答を呼びかけてください。
2. 回答状況の確認方法について
※manaba courseにログインして、現在の回答者数を確認できます。
（①ポータルサイトにログイン → ②manaba courseにログイン → ③マイページ上の「大学からの課題・アンケート一覧へ」をクリック → ④回答結果を確認したいコース（科目）をクリック）

学習支援・教育開発センター

2017年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会一覧

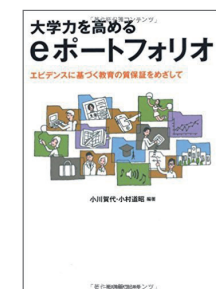
学修支援・教育開発センターでは、教育改革を推進する一環として、学内のグループ又は個人に対し、教育全般・授業・教材等の研究開発を奨励し、公開に対する支援を行うことを目的とした自己応募研究プロジェクト事業を実施（2017年度は8件の研究プロジェクトを採択・遂行）しています。

中間報告会は、それぞれの研究プロジェクトの遂行状況を全学に公開し、その研究成果を共有することを目的としています。詳細につきましては、開催日の約1週間前を目処に「学修支援・教育開発センター News」にてご案内しますので、是非中間報告会に足をお運びください。

| 代表者名 | プロジェクトテーマ | 日時 | 場所 | 中間報告テーマ |
|-----------------|--|-----------------------------------|-----------------------------|---|
| 赤津 玲子 (文学部) | 博士後期課程及び大学院生を対象とした集団スーパービジョンシステムの効果研究 | 2017年 12月8日(金) 12:30-13:00 | (大宮) 清風館301 共同研究室 | 博士後期課程及び大学院生を対象とした集団スーパービジョンシステムの効果研究 |
| 神谷 祐介 (経済学部) | ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実戦と評価 | 2017年 12月19日(火) 12:30-13:10 | (深草) 紫英館会議室 (会議室番号未定) | ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実戦と評価 |
| 島根 良枝 (経済学部) | 英語媒体の補助資料活用のための教材開発 | 10月～11月の 月曜日 16:30～(予定) | (深草) 紫英館共同研究室 (番号未定) | 英語媒体の補助資料活用のための指導法・教材開発—前期授業で得られた学生アンケート結果からみる成果と後期の重点課題 |
| 木下 徹弘 (経営学部) | 英語での抗議(経営学・会計学)の実践の準備 | 11月および12月の 火曜3講時 (予定) | (未定) | 留学生に対してのJEP-Eについての公開授業 |
| 李 洙任 (経営学部) | Moodle機能を使っでの チーム基盤型演習 (Team Based Learning/TBL) | 12月 (詳細未定) | (未定) | (未定) |
| 長尾 明子 (国際学部) | グローバルスタディーズ学科 3つの学問領域 (1) グローバリゼーション領域、 (2) コミュニケーション領域、 (3) エシックス領域 に対応した教材作成・教材開発 | 2017年 10月17日(火) 13:15-13:45 | (深草) 和顔館B106(仮) | English Medium Instruction (EMI) 授業と General English for Academic Purposes (GEAP) の 授業を可視化する：3つの学問領域 (1) グローバリゼーション(2) コミュニケーション、 (3) エシックス に対応した教材作成・教材開発 |
| 松本 章伸 (社会学部) | 【教材開発】 映像編集から「物語」を紡ぐ | 2017年 12月14日(木) 3講時(予定) | (瀬田) 2号館218 | 【教材制作】 映像編集から「物語」を紡ぐ |
| 久保田 優 (農学部) | 入学時生物・化学プレテストを用いた 学部教育適合性の評価解析(継続) | 2017年 11月22日(水) 15:30-16:30 | (瀬田) 9号館大会議室 | 入学時生物・化学プレテストを用いた 学部教育適合性の評価解析(第二報) |

新着図書紹介

大学力を高めるeポートフォリオ エビデンスに基づく教育の質保証をめざして



出版年月：2012年3月
編者：小川 昌代・小村 道昭
発行所：東京電機大学出版局
価格：本体2,800円＋税
ページ数：255ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784501627409

「eポートフォリオ」とは、学習履歴や業績データを長期間にわたって蓄積したものである。学習者は、自身の学習を振り返ったり、能力・キャリアの裏付けとして就職に活用したりできる。教員は、学生の学習を促進したり、学習到達度を的確に把握するツールとして活用できる。教育改善、コミュニケーション支援、初年次教育支援、専門職養成、キャリア支援、生涯教育等に活用できる。eポートフォリオの概念や背景から、導入の意義・メリット・考え方、実践事例、システム、将来展望まで解説。

学習者中心の教育 アクティブラーニングを活かす大学授業



出版年月：2017年3月
編者：メルリン・ワイマー
監訳：関田 一彦・山崎 めぐみ
発行所：勤草書房
価格：本体4,000円＋税
ページ数：320ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784326251193

自立した学習者の育成に向けて、実践者が心すべき5つのポイントとは何か。生涯学び続ける構えを育てるための、学習者中心の授業法や授業デザインを詳細に記述し、大学教育や授業者が今後目指すべき方向性を示唆する。

大学のアクティブラーニング —導入からカリキュラムマネジメントへ—

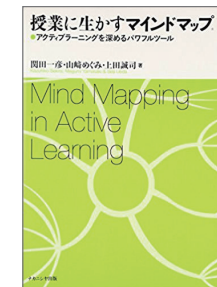


出版年月：2016年8月
編者：河合塾
発行所：発行所：東信堂
価格：3,200円＋税
ページ数：368ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784798913797

5年間の変化を検証し、アクティブラーニングの新たな課題をえぐり出す。河合塾が行った、2011年度と2015年度の「大学のアクティブラーニング調査」をもとに、5年間の変化と新たな課題としてのカリキュラムマネジメントの重要性を明示。導入における3類型のアプローチの事例も紹介。溝上慎一教授(京都大学)による最新課題についての講演を収録。法学部でもアクティブラーニングが動き出した！現場からの事例報告を収録。

新着図書紹介

授業に生かすマインドマップ アクティブラーニングを深めるパワフルツール



出版年月：2016年1月
著者：関田 一彦・山崎 めぐみ・上田 誠司
発行所：ナカニシヤ出版
価格：本体2,100円＋税
ページ数：103ページ
大きさ：B5
ISBN: 9784779510182

アクティブラーニングを支援し、よりよい学びを深めるために、様々な場面で生かせるマインドマップ活用方法を分かり易く丁寧に紹介。

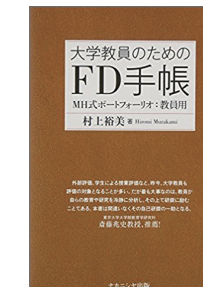
ビジネス手帳で中高生の「生活習慣力」が みるみる変わった!



出版年月：2012年11月
監修：能率手帳ブランドーズ
編者：日本能率協会マネジメントセンター
発行所：日本能率協会マネジメントセンター
価格：1,200円＋税
ページ数：147ページ
大きさ：B6
ISBN: 9784820718505

大人の手帳活用術を生徒指導に導入した高校で「忘れ物が減った」「勉強時間が増えた」などの効果が新聞やテレビで報じられたことがきっかけとなり、生徒指導に手帳を使うことが学校関係者の中で話題となっている。本書は、中高生の保護者や先生に向けて、子どもが自主的に時間管理や目標管理をするようになる手帳術とは何かを解き明かした本。

大学教員のためのFD手帳 MH式ポートフォリオ：教員用



出版年月：2013年3月
著者：村上 裕美
発行所：ナカニシヤ出版
価格：2,000円＋税
ページ数：115ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784779507601

外部評価、学生による授業評価など、昨今、大学教員も評価の対象となることが多い。だが最も大事なことは、教員が自らの教育や研究を冷静に分析し、その上で研鑽に励むことである。本書はその自己研鑽の一助となる。

アクティブラーニング実践 現場ですぐに使える



出版年月：2015年8月
著者：小林 昭文・鈴木 達哉・鈴木 敬司
編者：アクティブラーニング実践プロジェクト
発行所：産業能率大学出版部
価格：本体2,000円＋税
ページ数：265ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784382057289

アクティブラーニングは全教員に必須です。本書は実践者向け実用書であり、特に多方面からの情報収集により実現した「全国の新進気鋭32名の授業レポート」、秀逸の実践的個人研究、振り返りに特化した考察などは類書の追随を許さないものと確信します。産業能率大学主催「キャリア教育推進フォーラム」8年間の集大成でもあります。本書から実践を学び、組織的な授業改革を実現してほしいと思います。(溝上慎一先生 推薦の言葉より)

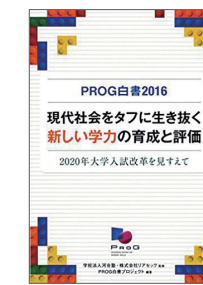
大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン アクティブ・ラーニングの組織的展開にむけて



出版年月：2016年6月
編者：日本高等教育開発協会・ベネッセ教育総合研究所
編集代表：佐藤浩章・山田剛史・樋口健
発行所：ナカニシヤ出版
価格：本体2,400円＋税
ページ数：152ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784779510618

大学へのアクティブ・ラーニングの導入を意欲したカリキュラム改革の行方を探る。全国の国立・公立・私立大学の学長への大規模なアンケート調査(2376学科から回収)と多様なケーススタディから見てきたカリキュラム改定の方向性とは何か。近年の動向について現場の実践者の視点を交えながら高等教育の専門家たちが迫る。

PROG白書2016 現代社会をタフに生き抜く新しい 学力の育成を評価 2020年大学入試改革を見ずして



出版年月：2016年6月
監修：学校法人河合塾・株式会社リアセック
編者：PROG白書プロジェクト
発行所：学事出版
価格：本体1,800円＋税
ページ数：128ページ
大きさ：A5
ISBN: 9784761922580

高校生・大学生の「今」がひと目でわかる。「PROG白書2016」の第一部では、「なぜ、大学は高等教育で求められる学生の多面的評価を取り入れるのか」、第二部では、新たに高校生約3000人がトライアル受験したPROGデータを基に、高大7年間のジェネリックスキル育成の実態を解明。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1. お名前、2. ご所属、3. 教員/職員の別、4. 貸出希望の書名、5. 著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher/siryou/ をご参照ください。

アクティビティホール・ギャラリーをご利用ください。(深草学舎学生コモンズ内)【要予約】



アクティビティホール
ゼミ活動やワークショップ、
成果発表等のイベント会場
として多様な用途に使用
できます。



ギャラリー
正課・正課外、学生の課外
活動、教員の研究活動など、
ジャンルを問わず様々な情報
について、パネル・ポスター
等を展示広報する情報発信
空間です。

アクティビティホール、ギャラリーの利用申請書は以下のURLからダウンロードできます。
<http://www.ryukoku.ac.jp/learningcommons/layout.html#student>